



岩手県立軽米高等学校
学校通信72号
令和4年12月19日発行

第2学年 修学旅行 11月30日(水)～12月2日(金)

悪りい～子はいねがあ～

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が終息を見せず、当初計画の関西から、何かあっても直ぐ対応できる東北・秋田への修学旅行に行ってきました。

隣接県の素晴らしさ、東北の良さを改めて知る良い機会になりました。コロナの始まりが当学年が中学校3年生の時、今回の修学旅行も実施の可否が問われましたが実施できて本当に良かったです。

修学旅行で学んだ事を今後の学校生活に生かし活躍できるよう、その成長を見守りたいと思います。



11/29(火) [結団式]



11/30(水) [出発]



[尾去沢鉱山]



[小坂鉱山事務所・康楽館]



[セウーランドホテル(男鹿)]

12/1(木) [なまはげ館・真山伝承館]

[男鹿水族館GAO]



[角館]

[秋田まるごと市場]

12/2(金) [秋田ふるさと村]



[秋田ふるさと村]

[帰校]

[解団式]





私たちは、二泊三日で秋田への修学旅行に行ってきました。予定していた方面とは違ったけど普段体験できないことができました。

なまはげ館では実際に体験したり、水族館ではたくさんの魚や動物たちを見ました。秋田になったけど、みんな楽しんでいだし友達と過ごしたホテルでの夜はとても思い出になりました。普段見られない友達や先生たちの面白い一面が見られてとても楽しかったです。友達存在は大事にしたいと改めて思った修学旅行でした。

2年1組修学旅行委員 源田 優



今回の修学旅行は、最初に行きたい場所に行けず不満に思う人が多くいて楽しくみんなと過ごせるかとても不安でした。ですが振り返ってみれば終始みんな笑顔で楽しかった思い出しかありません。

どこに行こうが親しい仲間と一緒に関係なくEnjoyできます！今回は秋田も楽しかったですが、改めて友達存在が大きく感じられました。いかなる時でも仲間の存在を忘れずに、時には頼り頼られる関係を保ち生活していきたいと思えます。

2年2組修学旅行委員 松本 優生

コロナ禍で起こり得る様々な状況を想定し、万が一の時に学校としてどのような対応が取れるかを悩んだ末、秋田県への2泊3日の実施としました。関西からの予定変更にはなかなか納得が得られず、ずっと心苦しく不安を抱えていました。

しかし、初日の夕飯で皆が楽しそうに食事を取っている姿を見て、涙が出るほど安心しました。3日間大きな事件事故もなく、全員の協力のおかげで良い旅行になったと思います。解団式での「3日間正直楽しかったという人は一人もいないと思います。」という修学旅行委員の言葉に全てが詰まっているように感じました。全員の参加は叶いませんでしたが、生徒達にとって楽しく貴重な体験とたくさんの思い出が得られた旅行が実現できてほっとしています。修学旅行に対してご理解・ご協力を賜った全ての方々へ心から感謝申し上げます。

2学年長 鈴木 麗

・中高一貫教育「英語集中講義(交流授業)」11/10(木)～15(火)

7月から始まった英語の交流授業、今回は高校の先生が主担当となり、“中学生は地元の高校に入学すべきか?!”という題材で、「ピンポンディベート」を実施しました。最終日は、全員がピンポンディベートに参加し、ひとり一回は発言することができました。後の中学生のアンケートでは、高校の先生の中学校での授業に対し好評価を受けることができました。



・中高一貫教育「理科出前授業」12/8(木)

「理科出前授業」、恒例の“ぶたの目玉の解剖”授業はじめの鈴木先生の「この授業を楽しみにしていた人?!”の問いかけにクラスの2/3以上の生徒が元気よく手を挙げる姿にビックリしながら解剖実習が始まりました。中には不得意な生徒もいましたが、みな生き生きと“ぶたの目玉”にはさみを入れていきました。

解剖後は、目玉の結晶体や視神経について詳しく学ぶことができました。インパクトある授業、大成功!!

